

教育研究業績書

令和5年5月1日

氏名 真 崎 由 美 子 印

教育上の能力に関する事項

| 事項 | 年 月 | 概要 |
|-----------------------|----------|--|
| 1 教育方法の実践例 | 平成23年4月～ | 卒業研究等の個別指導の中で一部オンライン形式の質問紙作成を手がける学生もあり、その指導を工夫した。オフィスアワーおよびメールにて学生からの相談を随時受け付けており、学生へのケア、面談を丁寧に実施している。 |
| 2 作成した教科書・教材 | 平成23年4月～ | 『こころ育て』（共著、教育出版）は、臨床経験から子どもと関わる際に気をつけるべきことや、子どもが求めているものについてわかりやすく記したものである。話を聴くことの意味や、耳を傾けることで子どもに生じた変化について解説しており、授業において活用している。 |
| 3 教育上の能力に関する大学等の評価 | 平成23年4月～ | 毎年、学期ごとに学生に対しアンケートを実施しているが、わかりやすい、楽しく学習できるとの声を多く受けている。 |
| 4 実務の経験を有する者についての特記事項 | | 特記事項なし |
| 5 その他 | | 特記事項なし |

職務上の実績に関する事項

| 事項 | 年 月 | 概要 |
|-----------------------|--------------------|---|
| 1 資格、免許 | 平成15年4月 平成31年2月 | 臨床心理士（登録番号第10461）取得（財団法人日本臨床心理士資格認定協会） 公認心理師（登録番号第7521号）取得（一般財団法人日本心理研修センター） |
| 2 学校現場等での実務経験 | 平成15年4月～平成17年3月 | 福岡市教育委員会より依頼を受け福岡市吉塚小学校、吉塚中学校にてスクールカウンセラーとして勤務、児童および保護者の心理支援、教職員保護者向けの研修を実施。 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | 平成19年4月～現在 | 平成19年度長崎県マイサポートプラン事業において『子育て支援の現状と課題、ならびに子育て支援マネージャー養成プログラムの開発に関する研究』を行った。以降毎年、地域での子育て支援講座にて講師を務めている。 |
| 4 その他 | | 特記事項なし |

様式第4号 (教員個人に関する書類)

| 担当授業科目に関する研究業績等 | | | | | | |
|-----------------|---|----------|----------|---------------|-------------------|--|
| 担当授業科目 | 著書、学術論文等の名称 | 単著 共著 | 発行年月 | 出版社又は発行雑誌等の名称 | 執筆ページ数 (総ページ数) | 概要 |
| 臨床心理学概論 | (著書) 1. 現代のエスプリ別冊「オールアバウト・メラニー・クライン」 | 共 | 平成16年6月 | 至文堂 | 16頁(総272頁) | 精神分析家メラニー・クラインの生き方を辿り、その業績や概念の変遷、後期の影響などを考察したものである。(P22-37, 執筆担当: メラニー・クライン伝記について) 著者: 松木邦裕編著・一木仁美・ <u>浅田由美子</u> ・福本修・木部則雄・菊池孝則・中川慎一郎他 |
| | 2 語り・物語・精神療法 | 共 | 平成16年8月 | 日本評論社 | 17頁(総240頁) | 本稿は語りからではなく、今ここの検討会で対話するセラピスト自身の語りの中に、その治療の特徴を浮かび上がらせるスタイルを用いて面接を再考するものである。(P27-44) (執筆担当: 解離症状を呈する女性との面接) 著者: 北山修・黒木俊秀編著、飯森真喜雄・ <u>浅田由美子</u> ・神田橋篠治・藤城有美子・重宗祥子・横尾博志・森岡正芳・妙木浩之他 |
| | 3 ころ育て Vol.3 | 共 | 平成18年6月 | 教育出版 | 10頁(総162頁) | 臨床経験の中から子どもと関わる際に気をつけるべきことや、子どもの心が求めていることなどをわかりやすく記したものである。 (P18-25, 執筆担当: 子どものころが求められるもの) 著者: 菅原正志編・岩永竜一郎・ <u>浅田由美子</u> ・岡元和正・佐藤智子・四辻淳子・新崎航平) |
| | 4 日常臨床語辞典 | 共 | 平成18年6月 | 誠心書房 | 2頁(総480頁) | 日常的に用いられる用語を臨床例や臨床心理の知見をもとに解説した辞典。(執筆担当: 「笑い」の効用、意味、分類などについて) 著者: 北山修・妙木浩之編著・ <u>浅田由美子</u> , 他) |
| 公認心理師の職責 | (著書) 1. 抑うつを精神分析的アプローチ病理の理解と心理療法による援助の実際 | 共 | 平成19年9月 | 金剛出版 | 21頁(総255頁) | 抑うつ背景にある心性を見誤らず関わり続けることは安心感をもたらす。人格も情緒を体験できるまで回復した過程を示し、精神分析的視点から事例を見立て、介入する重要性を解説している。(P107-127, 執筆担当: あるヒステリーにみる抑うつについて) 著者: 松木邦裕・賀来博光編著・日下紀子・椋田容世・ <u>浅田由美子</u> ・永松優一・中川慎一郎・鈴木智美・荘野悦子) |
| | 2. ころの性愛状態 | 共 | 平成24年11月 | 金剛出版 | 35頁(総頁) | メルツァーの代表作、フロイトの性愛理論を継承し性の発達に関する新たな知見を示唆した分析臨床の学びに不可欠な著作の本邦初訳本である。(p41-54, 155-167, 263-270 執筆担当: 第2, 10, 18章) 著者: ドナルド・メルツァー、古賀靖彦、松木邦裕監訳、 <u>真崎由美子</u> , 他) |

様式第4号（教員個人に関する書類）

| | | | | | | |
|-------------------------------|--|--|--|---|------------------------|--|
| <p>公認心理師 の職責</p> | <p>3. 『精神分析臨床 の失敗から学ぶ』</p> <p>(学術論文)</p> <p>1. 信念の放棄ととり入れ 一生きる ことの拒絶から受容へ—</p> <p>2. 心理療法におけるセラピストの妊娠・ 出産がもたらす心理的意味について</p> <p>3. 羨望の精神分析的 理解とその取り扱い</p> | <p>共 単 単 単</p> | <p>令和3年10 月</p> <p>平成21年7月</p> <p>平成26年2月</p> <p>平成27年3月</p> | <p>金剛出版</p> <p>精神分析 研究第53 巻第3号</p> <p>サピエン チア第48 号</p> <p>甲子園大 学紀要第 42号</p> | <p>14頁(総 261頁)</p> | <p>臨床の自験例を素材として、失敗の背景にあ る要因を考察し、わからなさという苦痛と向 き合い続けることの重要性について論じてい る。(p207-219, 執筆担当：わからなさを問い 続けることについて)</p> <p>著者：松木邦裕・日下紀子・根本眞弓編，村 井雅美，山口昂一，松本陽子，田中克昌，北 岡征毅，<u>真崎由美子</u> 他)</p> <p>本論では自己破壊欲求の強い女性との治療過 程を、生きることの拒絶から受容に焦点を当 てて論じた。特に、クライアントのよいもの のとり入れについての困難が顕著であった が、その背景にはクライアントの「押し付け られている」との信念を手放せないあり方が あり、この根深い信念を放棄していく喪の過 程がクライアントが真の意味で自分の生を受 容し、対象と主体的にかかわっていく心的な 変化をもたらした。喪の過程と治療者の理解 しようとし続けるあり方の重要性も論じた。 (pp:303-311)</p> <p>心理療法においてセラピストの不在は様々な 議論されてきたが、特に妊娠・出産に伴う中 断や終結は様々な空想を刺激し、危機も生じ やすい。双方が圧倒されることもあるが、そ の心理的意味を吟味し取り扱うことで治療に 役立てることもできることを論じている。 (pp:62-71)</p> <p>精神分析、とりわけ対象関係論における羨望 の解釈についての変遷を概観し、治療の停滞 の要因として羨望が大きく考えられる臨床素 材から、夢に表わされたものを理解につなげ ていくことの重要性などについて論じてい る。(pp:97-103)</p> |
| <p>心理学基礎 セミナー 1・2</p> | | | | | | |
| <p>心理学専門 セミナー 3・4</p> | | | | | | |
| <p>卒業研究</p> | | | | | | |